

がしんしょうたん
こたえ 臥薪嘗胆じゅけんいりぐち
受験入口 ①

臥薪嘗胆

(中国の古い話)

昔、中国に、呉と越という二つの国があり、長い間、争っていました。ある戦いで、呉の王は、越の国に敗れ、そのときのきずがもとでなくなってしまう。王のむすこの夫差は、父のかたきを決してわすれまいと、毎ばん、かたいまきの上にねて、そのいたみで、くやしさを思い出しました。数年後、夫差は、越の国をせめて、越の王の勾踐を打ち負かしました。勾踐は、命だけは助けられましたが、呉の国にしたがうことになりました。国にもどった勾踐は、この負けをわすれないように、苦い動物のきもを部屋につるし、毎日それをなめては、「おまえは、呉に負けたくやしさをわすれたのか。」と自分に言い聞かせました。

そして、それから二十年ほど後、勾踐は、ついに呉の国を負かしたのです。この話から、目的をとげるために、長い間、苦しみにたえることを、「臥薪嘗胆」というようになりました。「臥薪」はまきの上になめること、「嘗胆」はきもをなめることです。

1

夫差が、毎ばんかたいまきの上になめたのは、どうしてですか。

そのいたみで、父のかたきへのくやしさを思い出すため。

2

勾踐が、毎日、苦いきもをなめたのは、何のためですか。

ア

体を強くするため

イ

呉に負けたくやしさをわすれないため

ウ

病気を治すため

3

出来事の順に、□に1・2・3を書きましよう。

3

勾踐が、呉の国を負かす。

1

呉の王が、越に敗れる。

2

夫差が、勾踐を打ち負かす。

4

「臥薪嘗胆」とは、どういう意味ですか。

目的をとげるために、長い間、苦しみにたえること。